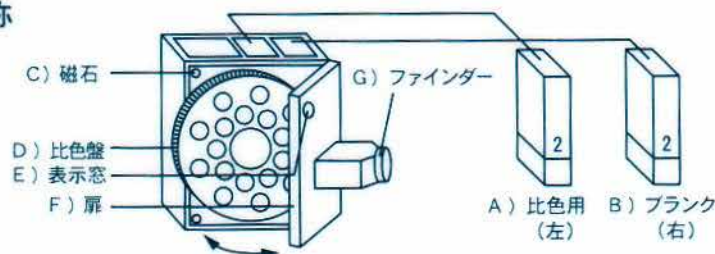


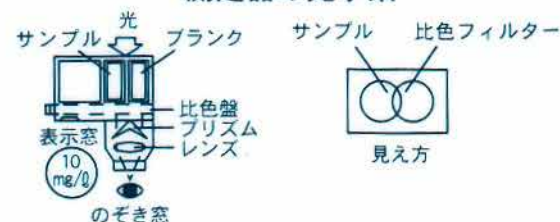
アンモニア態窒素(NH₄-N)測定器 NH₄-1Z-A 取扱説明書

測定範囲	0.0/0.2/0.5/1.0/2.0/4.0/6.0/8.0/10.0 NH ₄ -N mg/ℓ
標準付属品	比色試験器、NH ₄ -1Z-A比色盤 1枚、角型比色管(蓋付) 2本、アンモニア態窒素測定試薬(NH ₄ -Z-RA 50回分、NH ₄ -Z-RB 18mℓ)、携行ケース
別売品	アンモニア態窒素測定試薬(NH ₄ -Z-RA 100回分、NH ₄ -Z-RB 50mℓ)

各部の名称

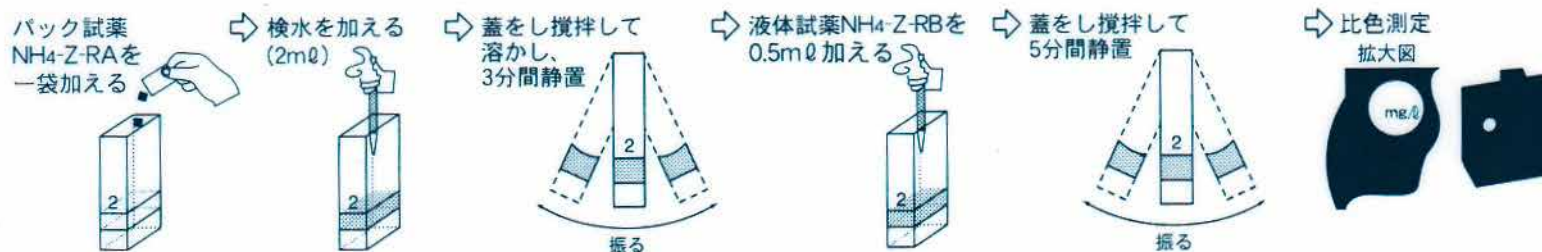


測定器の光学系



測定操作

- ①角型比色管(A)にNH₄-Z-RAを1包加えます。
- ②角型比色管(A)・(B)に測定したいサンプルを2mℓ採取します。
- ③角型比色管(A)に蓋をし、攪拌して完全に溶かし、3分間静置します。
- ④静置した後、蓋を開けNH₄-Z-RBを0.5mℓ加え、攪拌して5分間静置します。
- ⑤静置した後、角型比色管(A)を左、(B)を右に差し込み比色測定を行います。



※測定後の廃液はpH=12の強アルカリ性になりますので、取扱には充分注意してください。
 ※コバルト、鉄、マンガンの共存は誤差の要因となります。
 ※検水のpHが5~8の範囲外の場合は希硫酸、希水酸化ナトリウムで中和してから測定してください。

※検水の温度は15℃~40℃で行ってください。水温が低いと実際の値よりも低く測定されます。
 ※試薬は飲んだり口に入れたりしないでください。
 ※10mg/ℓ以上の濃度の場合は純水等で希釈して測定してください。

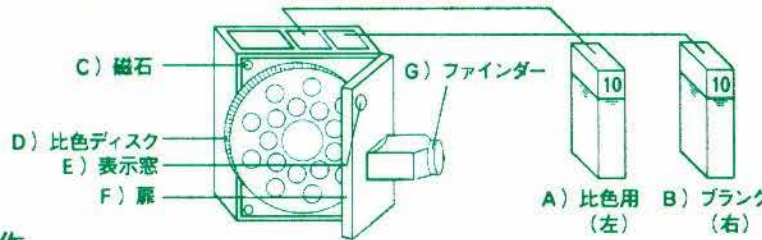
亜硝酸性窒素(NO₂-N) 測定器 “NO₂-N-1Z” 取扱説明書

測定範囲(NO ₂ -N)	0.006	0.012	0.03	0.06	0.09	0.15	0.18	0.24	0.3	NO ₂ -Nmg/ℓ
(亜硝酸イオン換算)	0.02	0.04	0.1	0.2	0.3	0.5	0.6	0.8	1.0	NO ₂ mg/ℓ
標準付属	比色試験器、亜硝酸性窒素比色盤 1枚、角型比色管(蓋付) 2本、携帯ケース 亜硝酸性窒素測定用パック 試薬(NO ₂ -T-RA 50回分、NO ₂ -T-RB 50回分)									

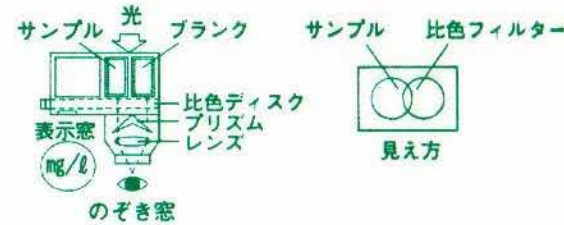
※亜硝酸性窒素から亜硝酸イオンを求めるには、亜硝酸性窒素濃度に3.3のファクターを掛けます。

計算式 $NO_2-N(mg/\ell) \times F:3.3 = NO_2^-mg/\ell$

●比色管の標線(10ml)まで採水/計量

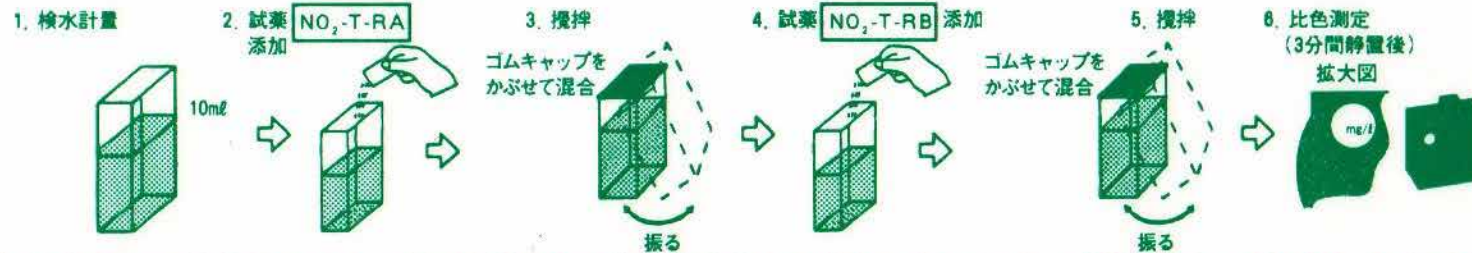


測定器の光学系



●測定操作

1. サンプル水を10ml 比色用セルに採り、**NO₂-T-RA** を入れ30秒間攪拌する。
2. **NO₂-T-RB** を入れさらに30秒間攪拌する。
3. 3分間静置したのち比色測定を行う。



⚠ 注意 1 亜硝酸イオンは、残留塩素などの酸化性物質とは共存しませんが、亜硝酸イオンが存在しなくても残留塩素及びクロロアミン類が存在すると 赤く発色して亜硝酸イオンと誤認される事がありますので 次亜消毒前の検水を採取して測定して下さい。

⚠ 注意 2 試薬は飲んだり、口に入れないで下さい。

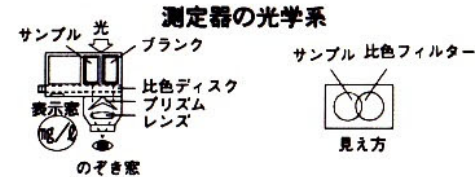
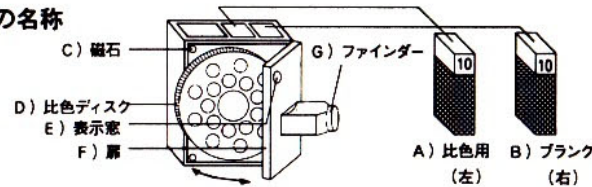
注意:直射日光下に長時間置くと、比色板が劣化(変色 等)することがあります。

硝酸性窒素(NO₃-N)測定器“NO₃-N-1Z”取扱説明書

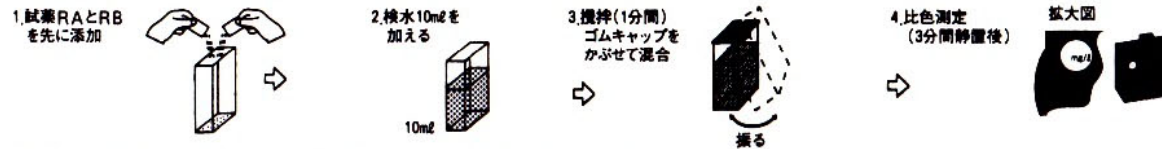
測定範囲(NO ₃ -N) (硝酸イオン換算)	0.05	0.1	0.2	0.5	0.9	1.3	1.8	2.2	4.5	9段階比色
	0.2	0.5	1.0	2.0	4.0	6.0	8.0	10.0	20.0	
標準付属	比色試験器、硝酸性窒素比色盤 1枚 硝酸測定用試薬(NO ₃ -T-RA、NO ₃ -T-RB 各50回分) 携帯ケース、角型比色管(蓋付) 2本									
標準外付属	加熱装置 前処理剤(亜硝酸除去剤)									

※硝酸性窒素から硝酸イオンを求めるには、硝酸性窒素濃度に4.43のファクターを掛けます。
計算式 $NO_3-N(\text{mg}/\ell) \times F:4.43 = NO_3^-(\text{mg}/\ell)$

各部の名称



- 測定操作 ①. NO₃-T-RAとNO₃-T-RBを先に比色用セルに入れる。
②. サンプル水を10ml加え1分間激しく攪拌する。 ③. 3分間静置したのち、比色測定を行う。



※サンプル水に亜硝酸性窒素が含まれている場合の処理方法
(亜硝酸性窒素が存在するとプラスに妨害します)

A. 亜硝酸性窒素が存在する場合は、前処理した後で測定して下さい。

前処理：サンプル水を10mlガラス容器に採り前処理剤(別売)を加え加熱装置で2分間加熱し沸騰させる。加熱終了後、蒸留水を加え全量10mlとする。→放冷後、測定操作を行う。

B. 簡便法(前処理剤を使わないでおおよその数値を得たい場合)

亜硝酸性窒素を別途測定した数値を10倍した値を硝酸性窒素の測定値より引くと硝酸性窒素のおおよその値が簡易的に得られます。

⚠ 注意1 本測定器はサンプル水中の硝酸性窒素濃度を測定します。
全窒素の測定を行う場合は別機種TN-1Zをお求め下さい。

⚠ 注意2 試薬は飲んだり、口に入れないで下さい。

注意:直射日光下に長時間置くと、比色板が劣化(変色等)することがあります。